

平成24年度 センター研究（主事研究）の概要

〈センター研究全体のテーマ〉

「学校教育を支援する実践的研究」

A. 課題研究 喫緊の教育課題について研究する。

A-1 「防災教育」

【研究主題】 児童生徒の発達の段階に見合った防災教育の指導法の研究
～自ら命を守る主体性と支え合う心の育成を目指して～

【研究の概要】

本研究は山梨の風土と地域の実情を踏まえ、地震災害における減災の視点を重視した児童生徒への体験型の防災教育の効果的な指導法を研究するものである。また、防災教育・減災教育の在り方・指導法を研究する。

【研究の目標】

○県内の教員や児童生徒を対象にしたアンケート調査、及び県外の先行研究等の調査を通して、防災教育の現状や児童生徒の実態を明らかにし、各学校の今後の防災教育に資する有効な調査報告を行う。

○小学校・中学校の学活、及び高等学校におけるLHRの時間の中で、それぞれの発達の段階に応じた体験的な学びを目指した防災教育に関する指導題材の一覧、及びその指導の展開例を提示する。

○防災訓練を防災教育指導の延長線上として捉え、そこでの児童生徒の行動を防災教育指導の検証資料とするとともに、様々な形態の訓練の可能性を探り、効果的・総合的な指導の在り方を提言する。

A-2 「理数教育」

【研究主題】 理数教育の充実を目指して
～山梨県内生徒・教員の実態調査を通して～

【研究の概要】

これからの「知識基盤社会」においては、科学技術の重要性が一層高まると言われている。しかし、近年実施された国際的な学力調査等で、日本の子どもたちは、算数・数学、理科において習得した知識・技能を実生活に活用する能力や学習に対する意欲・態度に課題があることが明らかになった。そのため、学校教育において、科学技術の土台である理数教育の充実が求められている。

本研究の1年目は、特に小学校高学年段階から中学校段階での算数・数学、理科の学習内容について県内生徒（抽出）及び教員（県内算数・数学、理科主任）にアンケートを実施し、分析していく。その資料と平成24年度全国学力・学習状況調査の調査結果及び平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査の調査結果とを比較・分析することにより、児童生徒が学習するどのような単元にどのような課題があるのか、その実態を明らかにしていく。

本研究の2年目は、1年目の研究で課題が明らかになった単元で、特に学年後半に実施

する単元の指導モデルを作成し検証を行い、よりよい指導モデルを提案していく。

3年目の研究では、1年目の研究で課題が明らかになった単元で、学年前半に実施する単元の指導モデルを作成し検証を行い、よりよい指導モデルを提案していく。

【研究の目標】

理数教育の充実が喫緊の課題ではあるものの、児童生徒が算数・数学、理科の学習のどの単元にどのような課題があるのかという具体的な調査は近年実施されていない。

よって、本研究の1年目の目標としては、県内の生徒・教員にアンケートを行い、実態を把握するとともに、平成24年度全国学力・学習状況調査の調査結果等を参考とし、比較していく中で小学校5年から中学校3年まで学ぶ算数・数学、理科の学習のどのようなところに課題があるのかを明らかにしていく。

A-3 「言語活動の充実」

【研究主題】 言語活動の充実を図る学習指導の在り方

～言語活動の充実に関わる県内各学校の研究の整理・分析を通して～

【研究の概要】

本研究は、平成17年度より本センターで行ってきた国語力・言語力・言語活動に関する研究及び県内各校での実践事例を整理し、その中から、全校で言語活動の充実に取り組んだ事例、各教科等における言語活動の充実が図られた授業実践事例を紹介し、その取組の視点や方法を具体的に示すものである。さらに、それを基に言語活動の充実を図るための学習指導のポイントを提示する。

【研究の目標】

各教科等における、言語活動の充実が図られた研究事例、実践事例を整理、分析し、学習指導のポイントを提示する。

B. 相談支援研究 教育相談及び特別支援教育に関する課題について研究する。

B-1 「教育相談」

【研究主題】 心の問題の理解を深め、有効な対応を探る研究

～小学校高学年における子どもの表現と教員の受容（復唱）を通して～

【研究の概要】

学校における心の問題、例えば不登校やいじめ、暴力の問題については、起こってしまった問題に対して対処的、治療的な支援（カウンセリング等）を行うと同時に、未然に防ぐための予防的、開発的な支援（育てるカウンセリング）を全児童・生徒を包括的に行っていくことが必要である。

H21、22年度の研究では、センターの相談記録から子どもの表現が適切に受容されたとき、不登校問題が改善に向かうということを検証してきた。そこでH23年度は、学校において子どもの表現を受容していくことができれば、不登校問題の予防につながるのではないかと考え、研究のフィールドを小学校に移した。これを受け、本年度の研究では、いじめ・不登校などの「心の問題」の未然防止を図るため、学校における子どもの表現と教員の受容の中で、最も導入がしやすく、効果が期待される「復唱」を取り入れることにした。その取り入れた様子や子どもの変化をフィールドワークを通して、明らかにするものであ

る。

【研究の目標】

「子どもの表現と教員の受容」のうち「復唱」を取り入れ、学級での所属感を高めることにより、いじめや不登校、暴力行為といった心の問題の未然防止に役立てる。

B-2 「特別支援教育」

【研究主題】 特別支援学級における自立活動の指導に関する研究Ⅱ

～自閉症・情緒障害特別支援学級における実態把握から指導計画の作成について～

【研究の概要】

自閉症スペクトラム障害のある児童生徒は、知的障害の有無と関連して実態が多岐にわたり、多様な指導が必要とされている。そこで、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導である「自立活動」に焦点を当て、学校で活用できる指導手順モデル（実態把握→指導目標の設定（項目の選定）→指導内容の設定→評価規準の設定→教材教具の選定→評価）と、その作成方法を提示する。並行して自閉症・情緒障害特別支援学級での実践事例を収集し整理する。

本研究は平成25年度までの継続研究として行い、最終的には指導手順モデルと指導事例が結び付いたガイドブックを作成する。

【研究の目標】

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒への理解と指導を一層充実させるために、「自立活動」に焦点を当て、その指導計画作成の手順を明らかにする。

C. 情報教育研究 情報教育に関する課題について研究する。

C-1 「情報教育」

【研究主題】 小・中学校、高等学校における情報教育の具体的展開に関する研究

～情報教育実態と課題の焦点化～

【研究の概要】

本研究は、2年計画の1年目として、小・中学校、高等学校の生徒、教諭、情報関係の授業担当教員へアンケート調査を実施し、各校種における情報活用能力に向けた情報教育の実態や課題を明らかにするものである。また、各校種の授業参観や授業担当教員との情報交換を行い、小・中学校、高等学校の系統的・体系的で連続性を考慮した実践的な授業展開の在り方を検証した。次年度は、焦点となる課題を解決する方法を探り、実践的な態度を育む指導を重視する高等学校の授業実践の事例をまとめ提示しながら、情報教育の推進を支援する研究とする。

【研究の目標】

本県の情報教育の実態や課題を把握する資料やデータを収集するためにアンケート調査を行い、そのアンケート調査の結果を分析し考察を行う。また、小・中学校、高等学校の授業を見学し、学校における情報教育の現状を把握する。次年度への継続研究を行うことにより、特に高等学校の教科「情報」における生徒の情報活用能力の育成に向けた情報教育を支援する。

C-2 「ICTの活用」

【研究主題】 小学校におけるICTの効果的な活用に関する研究

～電子黒板等で活用するデジタル教材の作成・収集・発信～

【研究の概要】

本研究は、小学校の教科、領域の学習において、電子黒板・大型デジタルTVに映して活用することで児童の学力向上に効果が期待できるデジタル教材の収集・作成を行い、その効果を検証するものである。また、本研究により収集・作成したデータを、山梨県総合教育センターのWebページ上で県内教員が活用できる環境を構築し、県内小学校の学習指導におけるICT活用を支援する。

【研究の目標】

小学校の教科、領域の学習において、電子黒板等に映して活用することで児童の学力向上に効果が期待できるデジタル教材の作成・収集を行いその効果を検証する。また、本研究により収集・作成したデータを、県内教員が活用できる環境を構築し、県内小学校のICT活用を支援する。

C-3 「校務の情報化」

【研究主題】 小・中学校を含めた県域サポート体制の構築に向けた調査・研究

～学校情報支援システム「ピーチウェア」の活用を通して～

【研究の概要】

教育の情報化への取組において、文書交換等の学校事務の効率化の視点から、総合教育センターの学習情報支援システム「ピーチウェア」の位置付けを明らかにし、その使いやすさの向上を図る工夫をするとともに、県内の学校事務の効率化の取組を調査し、校務の情報化の推進のための条件を洗い出す。

【研究の目標】

ピーチウェアを活用する効果と課題から、具体的な運用段階に向けた取組を行い、ピーチウェア活用の実効性を検証するとともに、校務の情報化の推進のための条件を明らかにする。

D. 教育課程実施状況調査に関する研究

【研究主題】 確かな学力の定着を目指した学習指導の在り方

～山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の分析を通して～

【研究の概要】

小学校及び中学校の児童生徒の学力実態や課題等について調査研究し、分析したデータに基づき学習指導の在り方を探る。調査研究に当たっては、全国学力・学習状況調査を補完する調査と位置付け、その調査で未実施の、小学校6年の社会科と中学校3年の社会科及び外国語（以下、英語）を具体的な研究対象教科とする。

まず、児童生徒の学力及び学習状況調査を全国値（全国における実施校全体の値）と比較しながら把握する。次に、その値が高くより伸張するとよいであろうと考えられる点（特長）や、値が低く補強を要する点（弱点）に重点を置いた学習指導の改善プラン（以下、学習指導レベルアッププラン）を提示する。その上で、義務教育課と連携しながら県下小

・中学校に向けて、そのプランの周知を図り、積極的に授業などにおける取組を促し、児童生徒一人一人の「確かな学力」の定着を目指す。併せて、多くの学校が学習指導レベルアッププランを活用して学習指導ができるように、簡便にプランを取得してもらえるシステム作り（広報）をする。

平成25年度には、学力の伸長状況を確認、本センターで示すプランの定着を図ることができるようにする。

【研究の目標】

各教科の指導において、山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の分析を通して、本県児童生徒の各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を把握し、今後の学校における学習指導の改善に役立てる学習指導プランを開発する。